第１２課　ヨブの贖い主

【暗唱聖句】

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。」イザヤ53:4

【今週のテーマ】

ヨブ記は、最後まですっきりと納得できない終わり方をします。しかし、イエス・キリストの十字架の中に、このヨブ記の疑問に対する答えを見出していくことができます。

【日曜日　わたしを贖う方は生きておられる】

「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。この皮膚が損なわれようとも、この身をもってわたしは神を仰ぎ見るであろう。このわたしが仰ぎ見る。ほかならぬこの目で見る。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る」ヨブ記19:25－27

ここに復活に対する希望があります。人間は誰でも、やがて眠りにつき、土と塵にかえっていきます。この避けえぬ宿命の中にあって、土や塵の中から、創造主である神を仰ぎ見るだろうというヨブの言葉は、まさに復活の希望の中に生きていることがわかります。絶望的な苦難の中で、なおも死を超越する希望があるのです。苦難の中で、この希望をわたしたちは改めて確認することになります。

　また、ヨブは単にここで復活の希望を語っているだけではなく、主を自分を贖う方と告白しています。罪のうちに死ぬのなら、人間には復活の信仰は生まれません。絶望的な罪を贖ってくださる方があるからこそ、復活の希望を持つことができるのです。ヨハネの福音書の中にも、創造主としてのキリストと贖い主としてのキリストの両面が描写されています。

「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった」ヨハネ1:3

「しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた」ヨハネ1:12

わたしたちは、常にこの両面をキリストの中に見ていくことが大切です。

【月曜日　人の子】

「あなたも肉の目を持ち人間と同じ見方をなさるのですか。人間同様に一生を送り、男の一生に似た歳月を送られるのですか」ヨブ記10:4，5

ヨブは人間の苦しみは神様には理解できない、だから自分がいまどれほどの苦しみの中にあるのかも神様にはわかるはずかないと感じています。おそらく、多くの人も同じように考えることでしょう。しかし、イエス・キリストが地上に来られ、人間のすべての苦しみ、悲しみを味わわれました。それゆえ、わたしたちの苦しみを理解し、憐れむことができるのです。

「この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです」へブル4:15

【火曜日　キリストの死】

「神の内にいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません」第一ヨハネ2:6

「わたしの子供たち、キリストがあなたがたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます」ガラテヤ4:19

イエス・キリストはわたしたちの模範です。唯一の完全なる手本です。わたしたちはキリストのように作り変えられていかなければなりません。しかし、キリストは単にわたしたちの手本となるためにこの地上に人として来られたのではありません。キリストはわたしたちの罪を背負い、その身代わりとなって死ぬために来られたのです。なぜならば、わたしたちは誰一人自分の力で義となることができないからです。キリストのようになりたいと願い歩み続けながらも、常に自分の中には脈々と罪が生きているのを知ります。律法を自分の力で克服することができないのです。だから、わたしたちには救い主が必要なのです。

【水曜日　人の子の苦しみ】

「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。」イザヤ53:4

ここに救い主なるイエス・キリストがわたしたちの病と痛みを負ったと書かれてあります。当然、ヨブの病と痛みもこの中に含まれています。ところで、子どもの痛み苦しんでいるのを見て、平気な親はいません。わが子の痛みは自分の痛みです。すぐにでも飛んで行って助けてあげたいと思います。しかし、ときに人知を超えた神の意図があって、その苦しみを許されることがあります。わたしたちは忍耐を試されます。祈りは切なるうめきへと変えられていきます。その間、主は目を背けることなく、じっとわたしたちを見つめておられます。そして、主の何らかの目的が達せられたとき、速やかに救いの御手が差し伸べられます。

わたしたちが知っているのは自分自身の病と痛みだけです。しかし、主がすべてを体験されました。すべての人の病と痛みを味わわれたのです。わたしたちは自分の苦しみに対して、なぜと問います。何も悪いことをしていないのになぜと。だとするならば、イエスの苦しみはどうなるのでしょう。まったく罪のない方が、創造主にして、全宇宙の王の王、主の主なる方が、辱めをうけ、鞭うたれ、罪人として死に引き渡されたのです。十字架のキリストを見つめるとき、わたしたちは言葉を失い、己の罪深さだけを思うのです。

【木曜日　正体をあばかれたサタン】

「イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう」ヨハネ12:30～32

この世の支配者であるサタンが追放される時が来ると主は言われました。キリストの十字架の勝利によって、サタンの敗北は決定的となり、サタンはまもなくこの宇宙から追放されます。善と悪との大争闘の終結です。サタンはキリストを十字架で殺したとき勝利したと喜びました。しかし、その喜びもつかのま、サタンはキリストの死によって自分が敗北したのだと悟ります。それは自分がこの世界から追放される、跡形もなく消え去ることを意味していました。

「つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」第二コリント5:19

キリストによって神と世が和解することによって、サタンは敗北していきます。神はサタンとは和解せず、ただ神を信じる神の子たちとのみ和解していきます。これによりサタンは神の子たちを責める理由を失ったのでした。